

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	・学習規律を整えるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を全教科で取り組み、協働的な問題解決力を養う。	最 終 評 価	・1年を通して、学習規律や協働的な問題解決力を養っていくことはおおむねできた。今後も継続して指導し、さらなる定着を目指していく。
環境作り		・各教科で適宜 ICT 機器を活用する。また児童同士の学び合いのツールとして ICT 機器を活用するなど授業展開を工夫して、どの児童にも「分かる」「できる」学習環境を作る。		・年間を通して、様々な教科や学習場面で ICT 機器を活用して授業を展開することがおおむねできた。来年度より、GIGA スクール構想がスタートする。今後も、児童の「学びたい」という思いを叶えられるよう、ICT を活用した指導のさらなる充実を図っていく。

■ 学年の取組内容

学年	教科	令和元年度の定着度調査（1学年を除く）や6月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての児童の課題	改善のための取組	追加する取組等（12月）	年度末の取組評価（2月）
1	国語	<p>学文を視写することは概ね出来るが、感想等を文で表すことに課題のある児童が多い。</p> <p>学どの児童も文字を習うことを好み、すすんで学習している。しかし、ひらがなの書き順や形を正しく覚えられない児童もいる。</p>	<p>・文を書くことに課題のある児童は、書く内容が定まらなかったり、文字の書き取り自体に時間が掛かったり（ひらがなが定着していないため）する。</p> <p>・筆順が正しいものと異なることで、バランスの悪い文字になる。また、形を覚えても文字の配置を意識していないことで、バランスが悪くなってしまふ。</p>	<p>・内容が定まらない児童には、定型文を示すなど、文を書く形に慣れさせる。慣れてきたら、自分の言葉に置き換えて文を書かせるなど、スモールステップで取り組ませる。</p> <p>・定期的な書き取りの学習を繰り返す。また、文字を書く時には、マスの4分割の部屋を意識させることで、文字の形を整えさせる。</p>	<p>・定型文の例示に加え、文章のひな型を常に提示することで、苦手な児童も文章に取り組みやすくなってきた。1行日記などの文章課題を定期的に取り組ませることで、書くことに対する抵抗感をなくせるよう指導していく。</p> <p>・マスの4分割を繰り返し指導することで、大小の形は整うようになってきた。空文字や指なぞりなど、お手本と向き合う時間を意識的にとることで、筆順の定着を今後も図っていく。</p>	<p>・定型文の例示に加え、文章のひな型を常に提示することで、苦手な児童も文章に取り組みやすくなった。文を書くことに対する抵抗感も薄れてきたが、差は大きい。今後は、スモールステップの質を児童によって考えていく必要がある。</p> <p>・マスの4分割を継続的に指導したことで、大小の形は整うようになり、大きさの違うマスでも形が大きく崩れない児童が増えた。筆順に関しては、口や日などの四角い形の漢字などは、筆順を無視して書く児童が多いため、漢字の種類によって、指導の軽重を付けていく必要がある。</p>
	算数	<p>学6・7・9・0の書き順に間違いがある児童が多い。</p> <p>学計算（10までの足し引き）は概ね出来る。しかし、文章の問題では、足し算なのか引き算なのかを判断できない児童が多い。</p>	<p>・自分にとって書きやすい形で定着してしまっている児童が多い。</p> <p>・文章で書かれている内容をきちんと捉えられていない。また、その授業時間は出来ても、時間が空いてしまうと出来なくなってしまう。</p>	<p>・日々の学習の中で、左記に示した文字の書き順を意識できるよう指導する。</p> <p>・文章で書かれている内容を絵で示したり、ブロックで示したりし、視覚的に支援をすることで文章の理解が進むようにする。また、定型の問題を繰り返したり、前時の学習の復習を授業の頭に行ったりすることで、文章の問題に慣れるように授業を計画する。</p>	<p>・誤った数字の書き方を正したり、ノートのチェックを細やかに行ったりすることで、正しい書き方が定着してきた。引き続き、指導していく。</p> <p>・定型問題の繰り返しや文章問題の内容を図で表すなど、視覚的に読み取れる工夫を行うことで、内容の把握が出来るようになってきた。今後も児童の課題を把握し、家庭学習でも取り組ませるなどして、今後も指導していく。</p>	<p>・0や9など、なかなか書き順が定着しない数字もあったが、概ね正しくかける児童が増えた。年度当初から、正しい書き順を意識できるように指導をしていくことが今後必要になる。</p> <p>・文章のみでの理解を求めるのではなく、図や絵などの視覚的に読み取れる工夫を継続することで、文章問題に対する理解も深まった。文章にもアンダーラインを用いたり、定型の言葉にチェックをしたりすることで、さらなる理解を促す指導が今後必要になる。</p>
2	国語	<p>学漢字やカタカナの読み書きや書き順をきちんと覚えていない状況が見られる。</p>	<p>・1年生の漢字やカタカナをきちんと書けなかったり、書き順を間違えて覚えていたりする実態がある。</p>	<p>・授業では、漢字の小テストを行って復習に力を入れるとともに、家庭学習で保護者にも協力していただき、漢字やカタカナの読み書きの習得を確実にする。</p>	<p>・「あのね日記」や作文の指導を通して、「は」「を」「へ」の指導を繰り返し指導することにより、徐々に正しい文法で記述することができてきているが、小文字の「っ」「や」「ゆ」「よ」を抜いて書いてしまう児童もいるため、併せて指導していく。</p>	<p>・「あのね日記」や作文の指導、冬休みの宿題などで繰り返し指導することによって、「は」「を」「へ」や小文字の「っ」「や」「ゆ」「よ」を適切に使える児童が増えてきた。しかし、句読点の誤りがまだ見受けられるため、中学年になってからも引き続き指導が必要である。</p>
		<p>学文章をしっかりと書ける児童とそうでない児童が見られる。</p>	<p>・書くことに対して苦手意識をもっている状況が見られる。</p>	<p>・授業で言葉集めをし、語彙力を増やようにする。また家庭学習で日記の宿題を毎週行い、書くことに慣れるよう指導する。</p>	<p>・国語の授業だけではなく、提出された宿題など、様々な場面で文字の書き方を指導したり、家庭学習で繰り返し漢字の課題を出したりすることで、おおむね習得できてきた。今後も、日記の宿題や作文の学習などで既習漢字やカタカナを活用できるよう指導していく。</p> <p>・相手を意識して音読したり、発表会をしたりすることによって、相手が聞きやすい音読を意識することができるようになってきた。引き続き指導していく。</p>	<p>・意識して丁寧な字を書く児童が増えてきてはいるが、集中力が切れたり、宿題のノートで雑な字になってしまったりすることがある。書き直しをさせたり、個別で指導したりするなど、中学年でも引き続き指導が必要である。</p> <p>・授業の中で音読を友達に聞かせる場面では、聞き手を意識した声の大きさや間の取り方をできるようになってきた。今後も継続的に指導していく。</p>

	算数	<p>学 10の合成は95%の児童が理解できている。</p> <p>学 たし算の筆算は繰り上がりなしの計算は全児童が理解できているが、繰り上がりありの計算は理解が十分でない児童が見られる。</p>	<p>・10の合成を全児童に理解させていくことが課題である。</p> <p>・たし算の筆算（繰り上がりあり）の計算を、全児童に確実に理解させる。</p>	<p>・10の合成を全児童に理解させるために、毎時、暗唱させる。</p> <p>・たし算の筆算（繰り上がりあり）の計算を家庭学習にも取り入れて、繰り返し指導する。</p>	<p>・計算問題に取り組む際、聞かれていることに下線を引くよう指導したことで、何を求めればよいかを意識して答えを導けるようになってきた。二学期は九九の学習も入ってくるため、今後も継続して指導していく。</p> <p>・ICTを利用しながら、教師が筆算の計算の順序等のノート指導を行うことで、徐々にノートの書き方が浸透してきた。引き続き指導していく。</p>	<p>・百マス計算などで、時間を意識させて計算に取り組ませたことで、素早く計算ができる児童が増えた。九九計算も繰り返し暗唱テストやペーパーテストを行うことで、学習内容を定着させることができた。</p> <p>・正しい筆算や式の書き方は定着してきたが、図や表をノートに分かりやすく書くことが難しい実態がある。引き続きICT機器などを利用してノート指導を続ける必要がある。</p>
3	国語	<p>調 「書く力・言語」の領域で、標準スコアよりも少し下回る結果となった。</p> <p>学 漢字の定着に個人差が見られる。</p>	<p>・個人差はあるが、書くことに慣れていない状況が見られる。</p> <p>・日本語や漢字に慣れ親しんでいない児童がいるため、個人差がある。</p>	<p>・フィンランドの教育手法である、「フィンランドメソッド」の「好き嫌い作文」に取り組むことで、書くことに慣れさせるとともに、理由を自分で考えさせることで思考力の向上も図る。</p> <p>・漢字学習に力を入れ、毎日練習させることで、どの子にも文字を正しく書く力を身につけさせる。特に「とめ」「はね」「はらい」に気をつけさせる。</p>	<p>・フィンランドの教育手法である、「フィンランドメソッド」の「好き嫌い作文」に取り組むことで、書くことに慣れさせるとともに、理由を自分で考えさせることで思考力の向上も図ってきた。成果は上がってきているため今後も継続し、指導していく。</p> <p>・漢字学習に力を入れ、毎日練習させることで、どの児童にも文字を正しく書く力を身につけさせてきた。「とめ」「はね」「はらい」も定着してきたので、継続指導していく。</p>	<p>・フィンランドの教育手法である、「フィンランドメソッド」の「好き嫌い作文」に取り組むことで、書くことに慣れさせるとともに、理由を自分で考えさせることで、思考力の向上も図ってきた。その結果、発言する時や他の作文を書く時にも生かせるようになった。</p> <p>・漢字学習に力を入れ、毎日練習させることで、どの児童にも文字を正しく書く力を身につけさせてきた。「とめ」「はね」「はらい」も定着してきた結果、テストの平均点も2割程度向上した。</p>
	算数	<p>調 「量と測定」の領域で、標準スコアを少し下回る結果となった。</p> <p>学 簡単な計算（一桁のたし算やひき算、九九）でもつまづきが見られる。</p>	<p>・量感やめもりを読む力に個人差が大きいことが課題である。また、「単位」を正しく覚えられていない児童がいたり、「量感」が身につけていない児童がいたりする。</p> <p>・繰り上がりのたし算、繰り下がりのひき算、九九がすらすらとできない児童がいる状況がある。</p>	<p>・学習プリントを使い、時折復習させるようにしていく。その際、理解が不十分な児童には個別に対応していく。</p> <p>・マス計算に取り組むことで、計算の能力向上を図り、全体の学力向上につなげていく。</p>	<p>・学習プリントを使い、適宜復習させることで学力の定着を図ってきた。量感やめもりを読む力も身に付いてきた。今後も根気よく指導していく。</p> <p>・マス計算に取り組むことで、計算の能力向上を図ってきた。今後も継続し、全体の学力向上につなげていく。</p>	<p>・学習プリントを使い、適宜復習させることで学力の定着を図ってきたことで、量感やめもりを読む力も身に付いてきた。また、テストの平均点も1割程度の向上が見られた。</p> <p>・マス計算に取り組むことで、計算力の向上が見られ、暗算のスピードが上がった。そのことにより、2桁以上のかけ算の筆算の計算スピードや正確性が向上した。</p>
4	国語	<p>調 各領域とも標準スコアを上回っている。語彙力を含め、「書くこと」の領域に個人差が見られる。</p> <p>学 漢字の定着に個人差が見られる。</p>	<p>・文章を書くことに抵抗を感じる児童がいる。説明文の学習では、正しく読み取ることができない児童がいる。</p> <p>・既習漢字の習得ができていない児童がいる。</p>	<p>・論理的思考力を身に着けるために、構成を考えながら書く練習をさせる。</p> <p>・家庭と連携し、計画表をもとに家庭学習の徹底を図る。</p>	<p>・文章を要約する学習で、接続語を意識しながら、話の全体の構成をつかむ授業を行い、構成図の書き方が身につけてきた。</p> <p>・家庭学習の定着はしてきたが、漢字練習の字を丁寧に書くように指導していく。</p>	<p>・総合的な学習の時間との教科横断的な単元計画を立て、意見文を書いた。また、パワーポイントを活用してプレゼンテーションや、ディベートを行った。その取組により、書く力、話すこと、聞くことの力、論理的思考力を高めることができた。</p> <p>・計画表をもとに家庭学習を行ったことで、習慣化することができた。漢字練習に関しても、一つ一つ丁寧に指導することにより、美しく文字を書く意識を高めることができた。</p>
	算数	<p>調 各領域にわたり、大変良好である。</p> <p>学 既習内容が習得できていない児童がいる。</p>	<p>・計算や分度器、コンパスなどの道具を使い方に課題が見られる。</p>	<p>・習熟度別指導を活用して、適宜、計算の復習を取り入れるなど、児童の実態に合わせた指導を行う。</p> <p>・ICT機器を活用して、教師の手元をプロジェクターで投影しながら指導し、道具の正しい使い方を指導する。</p>	<p>・指導計画を見直し、習熟度別指導を活用しながら、習熟にかける時間を多く設定したため、児童の力を高めることができた。引き続き、指導計画を見直しながら指導していく。</p> <p>・道具の正しい使い方を指導したが、活用する中で、正しく扱えていない場面があった。引き続き、ICT機器の正しい使い方を適宜指導する。</p>	<p>・指導計画を精選し、各単元で実態に合わせた指導をする時間を確保したことで、力を高めることができた。来年度も、児童の実態に合わせて指導計画を精選して指導していく。</p> <p>・道具の正しい使い方について、ICT機器を活用して指導したことにより、正しく使える児童が増えた。今後も適宜、授業で取り扱ったり、児童一人一人に合った課題を提示したりして、さらに習熟できるようにしていく。</p>

5	国語	調区の学力調査の結果、作文など書く領域が区の目標値の正答率より下回っている。	・「書くこと」に対して苦手意識をもち、何をどのように書いたらよいか悩んでいる児童が見られる。	・日記や短文作りを日常的に取り入れたり、授業で言葉集めをして語彙力を増やようにしたりし、「書くこと」に関する力の定着を図る。	・日頃の授業の中で、適宜文章を書いたり、学習の見通しをもたせたりすることで、書く活動を意欲的に取り組む児童が増えた。今後も、文章を書く際に、相手意識と目的意識をしっかりともたせて書くよう継続して指導していく。	・日頃から書く活動に取り組んだことで、文章を書くことに意欲的に取り組む児童がさらに増えた。今後も相手意識と目的意識をもたせながら取り組ませることを大切にして指導を継続していく。
	算数	調各領域とも標準スコアを上回っているが、図形についての領域が、全体と比較すると少し下回る結果となった。	・図形の定義や性質への理解が十分でない児童が見られる。	・教材や発問を工夫して、算数の学習が日常生活に深く関わっていることを実感させて興味関心を高める。また、適宜ICT機器や具体物を活用しながら指導し、学習内容の定着を図る。	・図形の指導では、操作的活動やICT機器を活用して図形の性質や作図方法を適宜指導したことで、理解が深まった。今後も、日頃の授業の中で、前単元までの復習を取り入れながら指導していき、定着を図る。 ・家庭学習で、計算の学習を適宜取り入れて指導してきたことで、ケアレスミスや誤答が少なくなった。今後も、家庭学習や日頃の授業の中で、適宜計算の学習を取り入れて、児童の実態を把握しながら理解が深まるよう指導していく。	・操作的活動やICT機器を活用した作図指導に適宜取り組んだことが、作図方法に関する理解を深め、作図技能を高めることにつながった。さらなる学習内容の定着を図るため、継続して指導する。 ・授業と家庭学習で計算の学習に取り組んだことにより、習熟を図ることは概ねできた。今後も、児童の実態をしっかりと把握しながら指導を重ね、理解がさらに深まるよう指導する。
6	国語	学文章を書くことに課題が見受けられる。	・語彙が少なかったり、漢字の長期定着が難しかったりする実態がある。 ・「はじめ・中・終わり」に分けて文章を書くことや、自分の感情や感想を詳しく書き表すことに課題のある実態がある。	・ICT機器を活用して漢字の書き方を指導するとともに、家庭学習で漢字学習を行うなど、家庭と連携し、既習漢字の定着に努める。 ・文章構成ワークシートやふせん、イメージマップを活用して、自分の考えを整理し、順序立てて文章を書けるよう指導する。また、読み手を意識した表現ができるよう指導する。	・友達同士で文章を読み合うことによって、語彙や表現方法の幅を広げることができた。今後は自分の考えを整理し、順序立てて文章を書けるよう指導し、読み手への意識をさらに高めていく。	・説明文や意見文を書く活動では、文章の構成メモを作らせた。そのメモを活用して、どのような構成にすると自分の考えをより効果的に読み手に伝えることができるのかを考えさせたことで、自分の考えを文章に分かりやすく表現することができる児童が増えた。
	算数	学文章問題の立式や計算が課題である。	・『小数のかけ算・わり算』、『分数のたし算・ひき算』の技能の定着が不十分である。 ・計算方法の理解が不十分であったり、方法は理解していても計算自体を間違えてしまったりすることがある。	・授業だけでなく、家庭学習で、計算の学習を取り入れる。また文章問題の練習も行い、既習した計算を活用できるようにする。	・習熟度別に分かれ、児童の実態に応じて用具の操作のポイントの指導をすることで、作図への技能や理解を高めることができた。今後は、ICT機器やeライブラリの活用をさらに充実させ、一人一人に合った課題や資料を提示していく。	・習熟度別に分かれて児童の実態に応じて指導したり、ICT機器やeライブラリを活用したりしたことで、基礎的な計算方法の理解や技術の定着を図ることができた。残りの期間で6年間の復習をして、さらなる定着を図っていく。
音楽	学・歌唱を好み、拍の流れにのって進んでハミングをしている。 ・鍵盤ハーモニカ、リコーダーにも興味をもち、進んで指練習の練習や復習をしている。	・リズムを読み取る体験が少なく、拍の流れを意識する習慣がさほどない実態がある。 ・階名読みのできる児童とそうでない児童に差があり、階名読みにふれる機会が少なかった実態がある。	・短い時間でも継続して、進んでリズム打ちをする機会をもつ。拍の流れを意識させながら様々なリズムに親しめるようにする。 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏する楽曲などにおいて、全員に階名を読ませる。さらに書かせることにより、少しずつ定着をはかる。	・学習した楽曲に合う手拍子をつけ、歌いながらリズム打ちをしたり、リズムを作らせてたいたりする機会を多くもち、リズムに親しむことができている。 ・楽譜を指でなぞりながら、階名読みをする機会を増やした。少しずつ読譜力がついてきている。	・学習した楽曲からリズムを抜き出してリズム打ちをしたり、リズムを作らせてたいたりする機会をもち、リズムに親しむことができた。低学年はカスタネットなどの楽器を積極的に使用し、高学年は手拍子のついた楽曲にも取り組むことができた。 ・階名読みをする機会を増やしたことにより、少しずつ読譜力がつけることができた。	
図工	学・自分自身のイメージをもって発想をすることができず、誰かと似たような絵になってしまう児童がいる。 学・混色や用具の扱いなど、全学年を見通した絵の具の指導が必要である。 学・絵画や版画、木工など、様々な造形活動に対して意欲的に取り組んでいる。	・自信が無かったり、発想する経験が少なかったりするために、自分なりのイメージを表せない児童がいる。 ・絵の具は水で薄めて塗るなど、絵の具の使い方の再確認が必要な児童も見られる。	・日常の図工の指導の中に、他者の絵・作品を観る時間を意図的・計画的に取り入れる。 ・低学年から、系統的な絵の具の使い方の指導を実践する。	・他者の作品を見ることで発想を広げることができる児童が増えているため、継続して指導していく。 ・絵の具を扱う技能については、おおむね身に付いている。水で薄める、筆を洗うなど、低学年から系統立てて継続的な指導をしていく。	・自分から発想をすることが苦手な児童も、展覧会の作品制作を通して、自分なりの作品を仕上げることができた。今後は、児童のアイデアを価値づけることで多様な考えが引き出せるように指導していく。 ・絵の具の基本的な技法については、各学年で基本的な指導をしつつ、単元ごとに再確認していく。今年度は、展覧会ということもあり、各学年で、厚塗りやにじみなど特色のある用い方を習得することができたので、今後も継続していく。	

特支				
----	--	--	--	--

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。